

地域における食中毒予防

—正しい手洗い方法普及効果についての一検討—

田中清司、佐々木隆一郎（飯田保健所）、梅澤光男（佐久保健所）、熊谷彰芳（伊那保健所）、宮下健昭、山川晋、藤井まや、伊藤博之、村澤典子（飯田保健所）

要旨：昨今、感染症・食中毒を発生させるノロウイルスは、施設及び調理従事者からの二次汚染による発生事例が大部分である。人からの感染症・食中毒の防止を図るためには、調理従事者の適正な手洗い方法を確立する必要がある。

そこで、飯田保健所では、手洗い方法の実情把握のため、食品営業者等を対象とした手洗い実態調査を行った。その結果「手洗い方法を知っているが、適正かどうか判らない」との回答が大半を占めた。また、手洗い検証器を用いた実習講習会を行い、適正な手洗いの普及を開始した。結果として、食中毒防止に若干の効果が認められた。

キーワード：ノロウイルス、食中毒予防、食品衛生講習会、手洗い検証器

A. 目的

飯田保健所管内では食中毒の発生が多く、発生予防対策が急務であった。平成 16 年度には 200 名が発症するノロウイルスによる食中毒が発生し、調理従事者の不適正な手洗いが、主因と考えられた。

そこで、飯田保健所では手洗い検証器を用いた手洗い体験講習会を開始した。また、食品営業者等の手洗いの現状を把握すること、及び手洗い体験講習会の短期的効果を評価する目的で手洗い実態調査を行ったので報告する。

B. 方法

1) 手洗い体験講習会

従来の食品衛生講習会の時に、実際に受講者が手洗い検証器を用いて、手洗い方法を客観的に自己評価できるようにした。

2) 手洗い実態調査

① 実施時期

平成 17 年 6 月 2 日～7 月 6 日の手洗い体験講習会の時。

② 手洗い実態調査の対象者

平成 17 年度飯田食品衛生協会支部、組合の調理従事者 230 名及び管内中学校生徒等 181 名。

③ 調査項目等

調理従事者及び中学校生徒の手洗いの時間、方法、適正さの知識、認識、回数等の現状、手洗い検証器の使いがって及び客観的手洗い体験講習会の感想等 10 項目である。なお、回答の偏りを防ぐ目的で、無記名とした。

C. 結果

① 回答者の背景

調理従事者の 230 名の内訳は、男が 79 名 (34%)、女が 40 名 (17%) で不明が 111 名 (48%) であった。中学生 181 名の内訳は、男 90 名 (50%)、女 82 名 (45%) で不明が 9 名 (5%) であった。

② 手洗いの現状

調理従事者の手洗い時間は、過半数が繁忙のため 20 秒以下であり、手洗い時間が不足しているという実態であった (図 1)。また、中学生では、40% が 20 秒以下であった。

調理従事者、中学生とも、過半数が手洗い方法

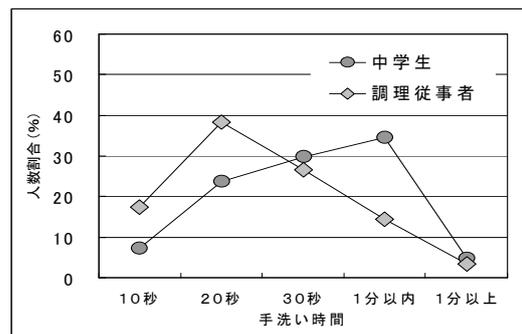


図 1 手洗いに費やす時間の状況

の知識があると回答し (図 2)、調理従事者の大半が適正に洗っていると認識していた。中学生は 79% が手洗いに不安を感じているという結果であった (図 3)。1 日の手洗い回数については、調理従事者では、10 回以上が過半数を超えていた (図 4)。手洗い手技に関しては、図 5 に示すように、調理従事者、中学生ともに洗えていない部分は爪の先と共通していた。

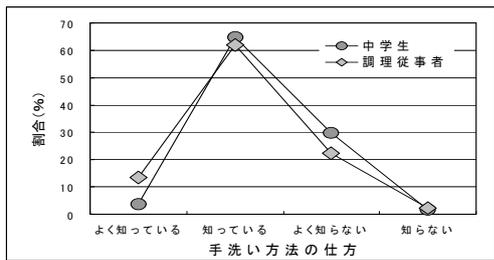


図2 手洗い方法に対する認識

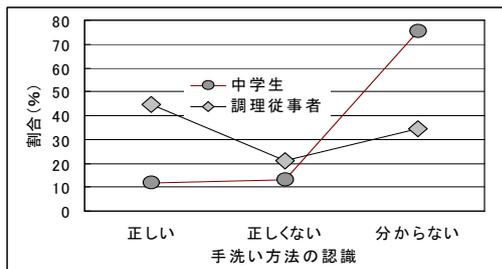


図3 手洗い方法に対する自信度

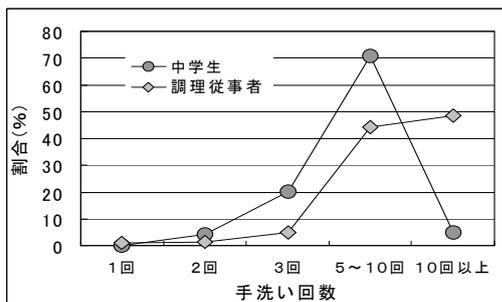


図4 手洗いの実施回数

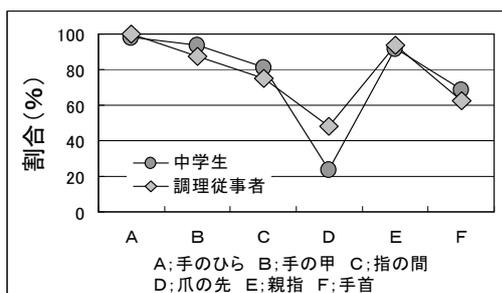


図5 手洗いの不十分な部分

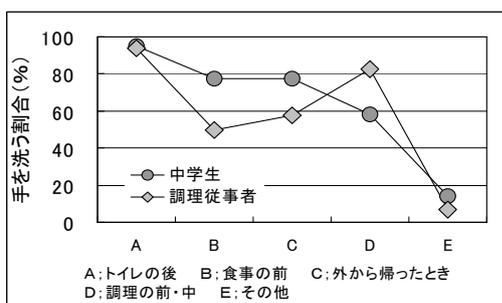


図6 日常の手洗い実施の状況

日常の手洗いの状況は、調理従事者は、トイレの後及び調理前・中ではよく手を洗っているものの、食事の前と外出後では過半数が手洗いを行っていない(図6)。

D. 考察

今回の調査により、手の清潔が業務の基本である調理従事者の手洗いは、方法及び認識の点で問題があることが明らかとなった。特に、手洗い手技や実施時間に関する認識不足、日常の手洗い状況は十分でなく、実体験を伴う手洗い検証器を用いた科学的な体験講習が、個々の手洗いに対する意識向上に大きく寄与すると期待された。

このため、飯田保健所では、手洗い体験講習会を推進している。平成17年度の実績は、41か所3,037名が受講した。

こうした予防活動の直接的な評価は難しい。しかし、飯田保健所管内では増加傾向にあった食中毒発生が減少し、平成17年度に県下唯一の食中毒未発生地区になったこと、地域病原体モニタリングで糞便由来病原体総数が減少している(図7)ことも、この予防活動の効果とみても良いかもしれないと考えている。

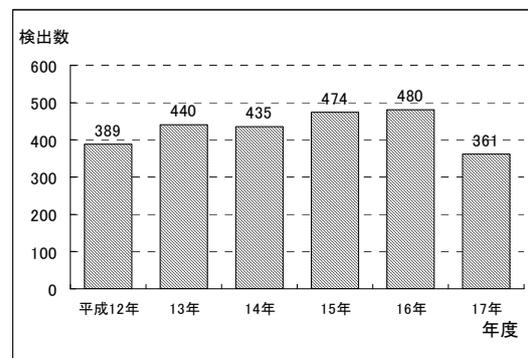


図7 糞便由来病原体検出総数の推移

E 謝辞

本研究は、平成17年度保健所機能強化事業の一環として実施したものである。

この事業を行うに当たって、絶大なる支援とご協力をいただいた飯田食品衛生協会並びに調査にあたってご協力いただいた竜峡中学校の方々に深謝いたします。